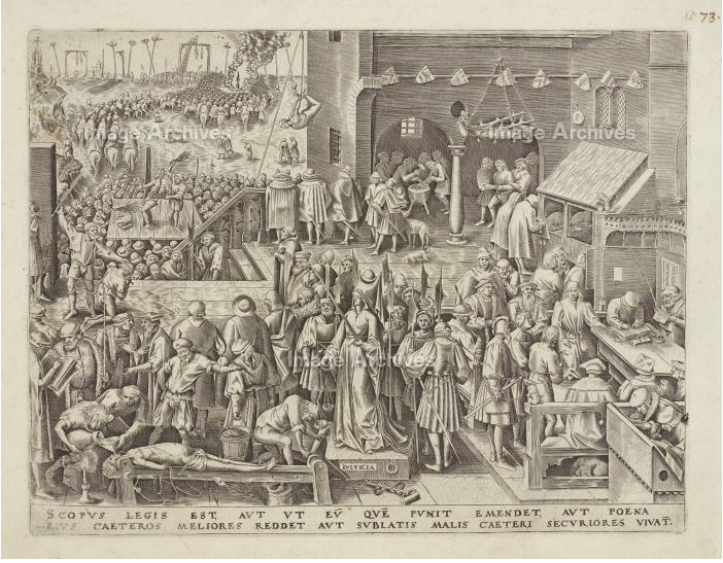
育成幼稚園　２月園だより

正義は美徳？

園長　高地　敬

16世紀のオランダの画家にピーテル・ブリューゲルという人がいます。『バベルの塔』の作品は有名ですが、農民の生活などを生き生きと描いている人です。『七つの美徳』、『七つの大罪』という一連の版画の作品があるようです。　七つの美徳とは、「知恵、勇気、節制、正義」という伝統的な四つの美徳に加えて、「信仰、希望、愛」という聖書にある三つを加えたものです。どれも大事なことで、みんな備えることができればいいと通常は考えられるものです。



『七つの美徳』の内、「正義」の絵を見ますと、右手前で裁判をしているようです。正義(justice)をもって人を裁く(judge)ということでしょうか。右手前以外の部分はすべて刑を執行しているところです。特に左手前、台に寝かされた人の口に大きなじょうごで水か何かを注ぎ込んでいて、刑でしょうか。拷問でしょうか。

「正しさ」についてはもちろん聖書でもいろいろ言われますが、人を裁いてしまうものとして扱われることもあります。自分の正しさを主張する時、その主張を受ける側は、要らぬ苦しみを加えられていると感じることが多いのだと思います。また、「正義」は例外なく絶対に守らなければならないという人が多いと、生きづらい社会にもなっていきます。ブリューゲルの「正義」の絵は、正義を美徳とするのはおかしいと言っているようです。

わたしたちも「正しさ」を子どもに言う時は気を付けなければならないと思います。「正しさ」によって子どもを責めず、また、過度の正義感を子どもに植え付けない。難しいことが多いと思いますが、心したいと思います。